



2026 年 1 月 15 日

北海道苫小牧海陸一貫モーダルシフト推進協議会

北海道における物流の課題解決に向け、船舶・鉄道一貫輸送の実証実験を実施 ～海上輸送されたシャーシ貨物積替え輸送を用いた海陸一貫モーダルシフトの取組み～

「北海道苫小牧海陸一貫モーダルシフト推進協議会※」は、2026 年 1 月 15 日～16 日にかけて、トラックドライバー不足など深刻化する北海道の物流課題解決のため、船舶・鉄道一貫輸送によるモーダルシフト構築に向けた実証実験を実施いたします。

本実証実験で実施する内容については以下のとおりです。

【実証実験参加者】

- ・ 物流事業者：日本貨物鉄道(株)北海道支社、苫小牧埠頭(株)、日本フレイトライナー(株)、大北運輸(株)
- ・ 港湾管理者：苫小牧港管理組合
- ・ オブザーバー：北海商科大学（相浦宣徳 教授）

【実証実験の概要】

RORO 船にて道外から苫小牧港へ海上輸送されたトレーラーシャーシ（実入り）を、迅速に積替えを行なうことで、鉄道輸送と“シームレス”に接続し、弟子屈町の納品先まで、船舶輸送×トレーラー輸送×鉄道輸送を組み合わせた「モーダルコンビネーション」による貨物輸送を実施し、道内背後圏への輸送モードの一つとして、鉄道が持つ潜在的な発展性について検証いたします。

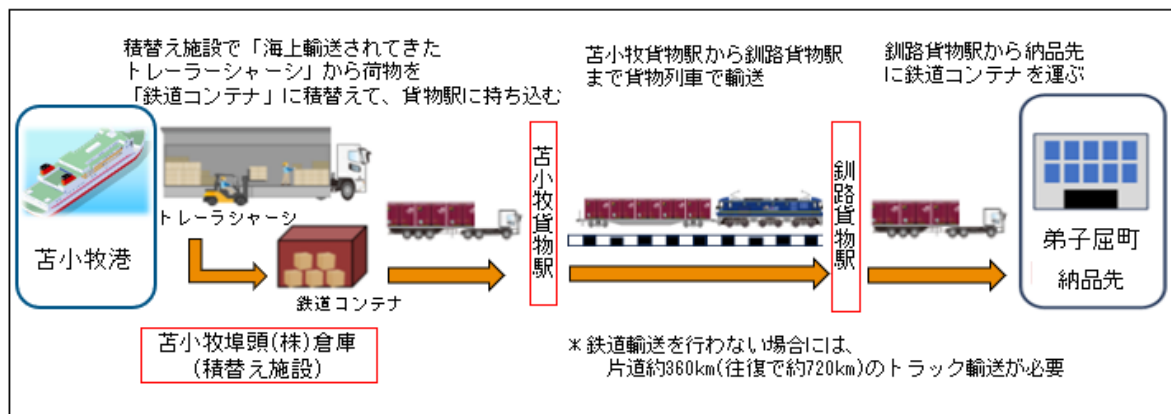
今回の実証実験の道内陸送距離（苫小牧～弟子屈）においては、片道約 360km のトレーラー輸送が必要となります。

これに対し、今回実施する実証試験では図－1 に示すとおり、苫小牧港で荷揚げされたトレーラーシャーシを、積替え施設で迅速に鉄道コンテナへ積替えすることで鉄道輸送とシームレスに接続し、ドライバーの輸送距離短縮を図ります。トレーラーの長距離輸送を回避することで、トラックドライバー不足など深刻化する北海道の物流課題解決を図ろうとするものです。

【期待される成果と今後の予定】

RORO 船にて運ばれてきたトレーラーシャーシを迅速に積替えすることで鉄道輸送と“シームレス”に接続し、より長距離・大量輸送に適した鉄道輸送へモーダルコンビネーションすることで、ドライバーの労働時間削減や長距離トレーラーの台数削減が期待できます。

また、苫小牧港からの輸送手段の多様化によって背後圏への輸送力が向上し、さらにBCP対応を加えることで持続可能な物流体制の構築が期待できます。今回の実証実験で得られた結果や課題を詳細に分析し、将来的な社会実装に向けた評価を進めてまいります。



図ー１ 今回実施する実証実験

【今回実施する実証実験の具体的な輸送方法】

< 1月15日(木) >

- ・ RORO船にて道外から苦小牧港へ海上輸送されたトレーラーシャーシ（実入）を苦小牧埠頭(株)倉庫（以下：積替え施設）へ搬入。同時に苦小牧貨物駅から搬出した鉄道コンテナ（空）を積替え施設へ搬入。シャーシ（実入）から鉄道コンテナ（空）に貨物を積替え。
- ・ 鉄道コンテナ（実入）は、積替え施設から苦小牧貨物駅へ搬入し、苦小牧貨物駅から釧路貨物駅まで鉄道輸送。

< 1月16日(金) >

- ・ 鉄道コンテナ（実入）は鉄道輸送で釧路貨物駅に到着。
- ・ 鉄道コンテナ（実入）を釧路貨物駅から搬出し、弟子屈町の納品先へ配送・荷卸し。

*北海道苦小牧海陸一貫モーダルシフト推進協議会

北海道における物流課題解決を目的に、苦小牧港管理組合、日本貨物鉄道株式会社北海道支社、苦小牧埠頭株式会社および北海商科大学（オブザーバー）により設立された協議会。2025年9月、国土交通省が公募した「地域連携モーダルシフト等促進事業」において、「北海道苦小牧地域での海陸一貫モーダルシフト」の実現可能性調査の採択を受けています。

【本件に関するお問い合わせ先】

苦小牧港管理組合	施設部計画課 TEL 0144-34-6682
日本貨物鉄道株式会社 北海道支社	営業部 TEL 050-2017-4118
苦小牧埠頭株式会社	経営企画部 TEL 0144-33-6161

以上